

## 府立学校の在り方懇話会高校教育部会（第6回）の開催概要

1 日 時 平成13年5月28日（月）14：30～16：30

2 場 所 京都府公館 レセプションホール

3 出席者

（部会委員）11名 <欠席1名>

（京都府教育委員会）武田教育長、津守教育次長、太田指導部長、松本指導部理事、  
塩見高校教育課長ほか

4 概要

（1）協議

ア 事務局説明

高校の学校規模の現状等について以下の内容が説明された。

- ・ 高等学校小規模化に伴う問題点
- ・ 府立高校平均学校規模の推移（南部及び北部 全日制・本校）
- ・ 学校規模別府立高校数（全日制・本校）
- ・ 学校規模別体育系・文化系部の設置数（平均）の比較

イ 意見交換

高校の学校規模について意見交換を行った。

<委員の意見要旨>

- ・ 中学3年生の生徒数がピーク時に比べ、半数近くまで減少するのに、高校の数だけ維持しようとする、どうしても小規模の学校になってしまうが、そうなる、と経費的にはたいへんなことになると思う。
- ・ 全日制と定時制の併置校が京都市内にはあるが、少子化により仮に統合ということ考えた場合、併置を解消し、余ってきた学校を定時制の単独校にしていくような構想が描けないか。全日制・定時制の併置は、部活動をはじめとする教育活動を展開する上で支障があるということも聞いている。物理的な問題はあるが、併置の解消について早急に取りかかるべきではないか。
- ・ 1学年10クラス規模（400人）では、教職員も生徒の顔と名前を覚えることができないのではないかと。1学年10クラスでは大きすぎると思う。5クラス規模の学校を卒業したが、5クラスあれば小さすぎて困る、ということもないと思う。

- ・ 小規模だと部活動が活性化しないとの意見もあるようだが、大規模だと逆に部員数が多すぎて困るということもあるだろう。また、全国大会さらにはプロを目指す人は別であるが、自分が楽しむためにクラブに入っている人にとっては、レギュラー人数の倍くらい部員数がいれば充分成り立つはずである。
- ・ 現在、中学校においては、近隣の学校が合同で部活動を実施するような取組を模索しているが、高校においても小規模化が進んだとき、近隣の学校で特色ある教育課程や部活動等を複数校で乗り入れて実施していくことも想定できるのではないか。
- ・ 少子化が進む中で学校の規模を考えないといけないというのは、教育の問題というよりも財政の問題ではないのか。実際に統廃合を行うとなった場合は、1学年十数人しかいないというなら統廃合もしょうがないとなるだろうが、3, 4クラス規模があれば、地元地域は小規模でも残してほしいとなるだろう。そのあたりの議論も必要ではないか。
- ・ 大学進学を意識した学校では、最低1学年8クラス規模は必要ではないか。それ以上減るとお互いの切磋琢磨という点が弱くなってしまわないかと考える。
- ・ 全国高等学校長会としては、適正規模の一つの指針として6~8クラス規模というものを持っている。
- ・ 府立高校の適正規模を考える上でポイントになるのが、普通科の類・類型制度である。類・類・類を維持しようとするれば、8クラスは必要だと考える。類は基本は2クラス設置である。類においては2年生から文系、理系、一般系を選択させており、基本的に40人でクラス分けをするので、4~5クラス程度はないと選択者の少ない系もあるので類型を維持できないという問題が出てくる。また、小規模では、教員数の制約により、規模の大きい学校と同等の講座を展開することは不可能となる。対応の幅が狭くならざるを得ないことになり、教育課程が硬直化し個性化・多様化への対応が充分できないという問題が出てくる。
- ・ 中学校の視点になるが、1学年2クラスなり3クラスなりという小規模校は、小規模なりにファミリーな中で学習ができるという意味でそれもよいと思う。ただ、選択幅の拡大とか、総合的な学習の時間が導入される中で多様な教育課程を組もうとすると1学年6クラスくらいはあったほうがよいと思う。高校では、中学校以上に教育課程も幅広く設定されるわけであり、6クラス以上あった方がよいのではな

いか。

- ・ 京都府の類・類型制度を考えると、類のみなら6クラス規模が適正ではないか。類・類・類をそろえると6クラス規模では小さいであろう。
- ・ 私の勤務する中学校は3学年で15学級である。学校経営という観点で、学校全体の共通理解が図れ、学校の意思が通っていくという規模は1学年5ないし6クラスではないか。ただ、この規模では、多様な教育課程編成という点で限界を感じる。高校では中学校と若干教員の定数配置等が変わってくると思うが、個性化教育を進めていく上で、子どもたちのニーズに対応し、少し選択の幅を広げていく状況を作ろうとすると、5ないし6クラス規模では小さいかなという感じがする。そこで学校の規模をもう少し上げると8クラス規模という数字が出てくることになるのか。
- ・ 小規模だと設置クラブ数も少なくなるということであるが、教育効果という点では設置できないクラブがあることにより、教育活動がどうしてもなくなるということはない。その学校にあるクラブの中で何か興味あるものをみつけ、そこで一生懸命がんばればよいのであって、数は大きな問題ではない。しかし、学校である以上、一定数の人間の中で切磋琢磨し、好ましい競争も経験しながら成長するという人間教育を考えると、小さ過ぎるのはやはり問題である。
- ・ 府の南部と北部を一緒に考えていてはどうにもならないという気がする。北部は将来学級数から見て悲観的である。学校数はそう多くなく点在している。これを統合すれば通学距離は伸びてしまうことになる。
- ・ 私が通っていた高校は5クラス規模（1クラス50名）であったが、いい規模の学校だと思っていた。5クラスという規模は、卒業後でも顔を見れば同学年の人だと思い出せる規模。8クラスという規模は、顔を見ても一緒の学年にいた人が思い出せない規模だと感じている。5クラス規模が小規模という意見には賛成できない。
- ・ 適正規模を論じるときに、京都府は南部と北部で分けた議論が必要である。それぞれの現状を押さえた上で、最も効果的な学校運営を考えなければならない。学校個々には質的な違いの背景がそれぞれあると思われ、その中で、「統廃合を行う」あるいは「小規模化しても質を高めていく」といった判断が必要となる。

- ・ 適正規模ということについては、やはり実際に学校を管理・運営し、教育実践を行っている学校現場の先生方の意見を尊重すべきではないか。
- ・ 生徒の個性、多様なニーズへの対応を考えたとき、例えば部活動を取り上げてみても、一定の数を確保できる規模、すなわち1学年6クラス以上は必要なのではないか。ただ、高校に望むものは、やはり「人間形成」であり、数があればよいというものではない。当然すばらしい「指導者」がいて、クラブ活動を通して人間形成も含めて指導してもらえということが非常に大事である。また、そういう指導者を育てていくことも大切なことである。
- ・ 今後の議論の仕方として、南部と北部を分けた議論、普通科校・専門学科単独校に分けた議論、定時制・通信制についての議論など少し掘り下げて議論する必要がある。
- ・ 現行の高校の事象を見ている中で適正規模について意見を述べたが、今後の高校の在り方に沿った適正規模について議論をしなければならない。そういう意味で、新しいタイプの学校について、さらに情報も提供いただいた中で議論しなければならないと思う。